

# 北海道大学病院

## 肝疾患相談センターニュース

### B型肝炎・C型肝炎の新しい治療が始まります

平成23年9月に、B型肝炎、C型肝炎に対する新しい治療が認められました。

B型肝炎には、現在C型肝炎の標準治療として使用されているペグインターフェロンの注射が可能となりました。治療期間も24週間から48週間の長期使用が可能となり、注射回数も週1回ですみます。さらに、HBe抗原陽性のみならず、HBe抗体陽性の患者さんも治療対象となりました。核酸アナログ製剤の内服に比べて、治療終了後もウイルスが低レベルで維持される可能性が示されており、期間限定の治療で、終了後も効果が持続する期待が持たれています。

C型肝炎に対しては、現在標準のペグインターフェロンとリバビリンに加えて、「プロテアーゼ阻害剤」という新しい薬剤を追加した3剤併用療法が可能となります。このお薬は、C型肝炎ウイルスに直接作用してウイルスの増幅を抑える薬で、従来の治療に比べウイルス量低下は、文字通り“桁違い”です。治療期間も48週間から24週間に短縮され、最も治りづらい条件の方の有効率(ウイルスの完全排除率)も50%から70%以上へ上昇します。さらに、前回の治療で再燃(治療中にウイルスが陰性化し、終了後に陽性に戻った)と判定されていた場合には、90%近い効果が期待されています。

B型もC型も、新しい治療が可能時代に進みましたが、必要性の有無や治療可能な条件、副作用などは患者さんによって異なります。具体的な内容は、主治医の先生とよくご相談下さい。

#### 肝臓病コラム 第1回

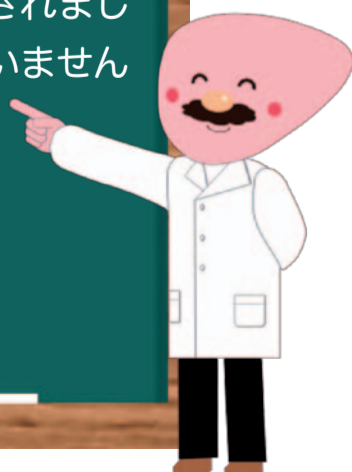
##### \*肝硬変と血小板\*

肝硬変の患者さんでは、「血小板」が少なくなることが知られています。血小板とは、白血球、赤血球とともに血液中に存在する血球成分で、血液を固める作用を持っています。

肝臓の線維化が進むと、① 脾臓が大きくなり、血小板の脾臓への取り込みや破壊が増加する、② 肝臓内の血小板産生を促進するホルモンが減少する、などの理由で、血小板数が減少すると考えられています。簡単な血液検査ですが、血小板数の減少は肝臓の状態をよく反映することが判ってきました。

ただし、血小板数の減少は、あくまで、肝障害進行の結果であり、血が止まりづらい症状が出なければ、生活上の工夫などは不要です。食品などで血小板を増やすものはありません。血小板が減少するある種の血液疾患に対し、血小板を増加させる薬が開発されました。現時点で、肝臓病への使用は認められていませんが、今後の研究に期待がかかります。

皆さんも、いま一度、自分の血小板数を確認してみてください。



#### 市民公開講座を開催しました

B型肝炎市民公開講座「知っていますか？B型肝炎の最新情報 ～正しい知識を得るために～」が、8/20日(土)に開催されました。兵庫医科大学より内科学肝胆膵科 主任教授の西口修平先生をお招きし、B型肝炎の最新の治療に関するご講演と、ご参加の皆様より事前に寄せられた質問にご回答いただきました。

当日は悪天候の中、100名近くの方々に足をお運びいただきました。肝疾患相談センターでは、今後も肝臓病患者さんやご家族の皆さんが、こうした新しい情報に出会うお手伝いをしていきたいと考えています。

講演会等の情報は、開催が決まり次第、ポスターやホームページなどでお知らせしていきます。今後の治療や生活について考える参考に、どうぞお役立てください。



8/20(土)に行われた市民公開講座の様子

#### 発行 肝疾患相談センター

肝臓病に関するご相談を受け付けています

☎011-706-7788

月～金(病院の休日を除く) 9:00～17:00

\*インターネット環境がある方は、ホームページもご覧になれます。北大病院トップページの「お知らせ」からお入りください。